

学会便り

参与会報告 ハリタ金属株式会社 射水リサイクルセンター Advisory Committee report: Meeting and visiting on Imizu Recycle Center of Harita Metal Co., Ltd.

渡辺 義見*
Yoshimi WATANABE*

平成29年度の第1回参与会・見学会を7月5日(水)ハリタ金属株式会社に開催した。ハリタ金属株式会社は、富山県高岡市に本社をおく廃棄物の収集運搬・中間処理、スクラップの破碎・選別、リサイクル事業などを行う従業員270名規模の企業であり、その設立は1975年に遡る。富山県に4か所、石川県に1か所の事業所を持つが、今回の参与会では、そのうちの富山県射水市の射水リサイクルセンターの見学をさせて頂いた。

参与会では、まず、張田 真社長から、自己紹介、会社説明があった後、経営論、リサイクルの基礎的なお話から今回見学の中心となったレーザー誘起ブレイクダウン分光法(Laser-Induced Breakdown Spectroscopy, 以下LIBSと略す)までのお話を頂戴した。他社との差別化の方策、未来を確実に予測できる人口統計の利用法、働き方改革を行って有給消化率を上げるためには生産性向上が必須なこと、やらない事業をそぎ落とすといった経営論は、著者にはとても新鮮に聞こえた。

見学会では、まず、リサイクルセンター全体を見させて頂いた。リサイクルセンターというと、スクラップを処理するという一般的なイメージがあるが、それとは異なり、2次資源の生産会社であることに驚かされた。カスケードリサイクルでなく、水平リサイクルが可能となるには、「モノ売り」から「コト売り」へと体質を変えた企業ならではの技術と社長の熱い思いによるものであろう。社の掲げる「We create」の思いが伝わってくる。

次に、一番の目玉であるLIBSソーター機の見学を行った。ここで、LIBSとは、サンプル表面にレーザーを短パルスで当て、それにより発生するレーザー誘起プラズマを分光して成分分析する手法であり、軽元素を含む広い元素を高速に計測できる特長を有する。これを連続的に行わせる装置がLIBSソーター機であり、細かく破碎したアルミニウム合金をコンベアーに乗せて、連続的にレーザーを照射して合金の種類をすばやく識別・選別できるリサイクル技術である。例えば、5000系合金と6000系合金を分別することが可能である。ハリタ金属株式会社では、経済産業省実証事業であるLIBS PROJECTをとおして、アルミニウム合金を元素レベルから成分分析し選別する装置を開発し、その実証試験を進めている。

見学会の後、質疑応答を行い、参与会を開催した。まず、委員からのご意見・ご感想を頂いた。昨今、参与会の参加人数が減少の一途をたどっており、それを打破する方策に関し

小出参与会委員長より提案があった。後日、アンケートを行うことが了承され、最後に石川事務局長より学会の説明があり、会は終了した。

懇親会は新高岡駅の駅前で行われた。後日、参加者から頂いた感想からは、とても盛り上がっていたようであるが、北陸から意外と交通の便の悪い名古屋へ帰る必要のある著者は、途中退席したため、想像の域を超えていない。なお、今回、非常に興味深い見学会を催せたものの、参加人数が少ないことが一番の問題点であった。次回の参与会は12月6日(水)に開催することが決定しているので、多数の参加を祈念する。



図1 LIBSソーター機と張田 真社長



図2 見学終了後の記念写真